

過去最悪 20 億円の被害

赤潮による養殖ブリへい死

八代海で発生した赤潮が、本町海域にある養殖ブリの生簀を直撃し、深刻な被害が出ました。

鹿児島県は8月19日、八代海で発生したシャトネラ・アンティーカによる赤潮で、本町の養殖ブリの被害額が20億3200万円になったと発表。へい死したブリの数も121万4000尾に上り、県水産振興課によると、県内での赤潮被害としては過去最悪になりました。

漁協別では、東町漁協管内で20億100万円、北さつま漁協管内で3100万円の被害です。

これまで本町での赤潮被害は、幣串や脇崎など特定の地域で発生することが多かったのですが、今回は獅子島、川床、鷹巣、諸浦、浦底、平尾と町内でブリ養殖が営まれていたすべての地域を巻き込みました。

赤潮になると、どうして養殖魚が死んだりするの？

一般に魚は鰓から海水中に吐き込んだ酸素を取り込み呼吸をしています。赤潮状態のようにプランクトンが高密度に存在すると、ある種のプランクトンが持つ有害成分によって鰓の組織が傷つき、その結果、酸素を取り込めなくなり死んでしまうことが明らかになっています。

赤潮は普通、海面付近で起こるため、天然の魚は深く潜ることなどによりそれを避けることができます。網で仕切られた養殖魚の場合、その多くが死んでしまうのです。

(鹿児島県赤潮図鑑から引用)



シャトネラ・アンティーカ

今回、八代海で大量発生したプランクトン。塩分濃度が低いときに増殖します。

(鹿児島県水産技術開発センター提供)